

AERONCA

[Japan Flying Association / J F A]

since 1953

Kanto Plain Mid-Air Collision Avoidance Seminar

July 20, 2019

Yokota Air Base
Japan



横田カンファレンス (詳細P4-5)

TABLE OF CONTENTS

● 「横田カンファレンス(詳細P4.5)」 藤沼 敏弘	P1
● 「赤十字飛行隊」	P2
● 「高橋会長 セントレア講演レポ」	P3
● 「Yokota MACA」	P4~5
● 「仙台空港 格納庫情報」	P6
● 「操縦士の自己管理」 奥貫 博	P7
● 「JFAサロン」	P8

赤十字飛行隊



長崎支隊

令和元年5月12日(日) 長崎県総合防災訓練(諫早市)

令和元年5月16日(木) 長崎市総合防災訓練(長崎市)

令和元年5月26日(日) 長崎県総合防災訓練(雲仙市)

長崎支隊では、赤十字無線奉仕団との非常無線通信、上空からの情報収集訓練をメインに担当しました。アマチュア無線及び日赤無線での状況報告と写真電送及び位置情報システムによる軌跡などをリアルタイムで災害対策本部及び各パソコンへの送信訓練を行った結果、ライブ動画が現場状況をより詳しく把握できる実感を得られましたが、この動画伝送には毎月の契約費用が発生し無線奉仕団、赤十字飛行隊での負担が大きくなることが今後の検討課題となりました。なお、この訓練の模様はテレビ放映もされました。

- 機体:JA3837 C172
- 機長:松本高明、指宿浩典
- 時間:1+00

群馬支隊

令和元年6月23日(日) 渋川市溝呂木自治会自主防災訓練

6月23日、渋川市溝呂木公園ヘリポートで、渋川市赤城町の溝呂木自治会による(主催者・木暮正士自治会長)自主防災訓練が行われました。訓練に先立ち、高木勉・渋川市長の挨拶があり、その後訓練に入りました。渋川市広域消防本部の署員が初期消防法の指導を行い、日本赤十字社群馬県支部の職員が自動体外式除細動器(AED)の使用法の実演を行いました。赤十字飛行隊群馬支隊はヘリでの搬送訓練を担当しました。参加した地元住民らは約180人。参加者全員で大規模災害への対応などを確認する一日となりました。

- 主催・溝呂木自治会長木暮正士
- 指導・渋川市危機管理室危機防災係／指導・渋川市広域消防本部(東分署)／指導・日本赤十字社群馬県支部
- 協力・赤十字飛行隊群馬支隊／協力・大同特殊鋼無線赤十字奉仕団
- 機体:JA310H アエロスパシアル式AS350B型



令和元年度

赤十字飛行隊全国支隊長研修

11月9日(土)13時～／日赤本社101会議室

詳細はあらためてお送りいたします。

出席のためのスケジュール調整を宜しくお願ひいたします。

「全員で”自分が主役”航空安全」

Report

主催 航空安全推進連絡会議名古屋支部、ANAウイングス乗員組合

日時 令和元年7月12日(金) 17時30分～

場所 大阪航空局中部空港事務所(愛知県常滑市セントレア1丁目1)

主催者からの依頼を受け、高橋淳会長が講演を行いました。これまでの飛行経験やそれらを交えた構成で、「一人ひとりがその立場における役割を間違いなく全うすれば、安全は保つていけるが、そこに少しでも改善していくという意識付けが大事。」「パニックに陥らないようするためにも余裕という自分なりのガードを作っていくましょう」と発信しました。戦時中、持ち場を死守してきた体験者からのメッセージはいつの時代にも通用するもの、反映させることができるものとして、参加者の皆様も共感されたのではないでしょうか。さて、参加者は40名でした。この中になんとお懐かしい顔に出会いました。当社団が調布飛行場に本部を置いていた頃の情報官にばったりです。何処かでお見かけしたような…と思っていたら間違いなく当時調布にいらした情報官でした。こうした出会いもあった嬉しい講演会となりました。この機会をセッティングして頂いた航空安全推進連絡会議名古屋支部、ANAウイングス乗員組合に厚く御礼申し上げます。



名古屋からの感想

私たちのREQに応じて遠路、セントレアまで足を運んで頂き本当にありがとうございます。

淳さんの話は先の大戦が遠のくに連れて航空関係者に留まらず聴取する全ての者に現在の平和とそれに対する感謝の気持ち、また散華された方々への畏敬の念を抱かせる大きな力があります。プロジェクトに映し出された雷撃中の3機の一式陸攻……、海面スレスレの2機、それから目を逸らせるために高度を取っている1機、あの写真は込み上げるものがありました。

安全集会に参加された方々が淳さんの話を聞いて何らか得るものがあったことは間違ひありません。改めて御礼申し上げます。淳さんにおかれましては100歳と言わず、いつまでもお元気で、ご活躍されますことを祈念しています。

本当にありがとうございました。中部地区 参加者H

航空安全推進連絡会議とは(パイロット、管制官、気象予報官、客室乗務員、整備士、グランドハンドリングなど民間航空のあらゆる職場に働いている46組合、10,500名の航空界最大の団体)

Yokota Conference

Kanto Plain
Mid-Air Collision Avoidance
Seminar

7月20日（土）に東京都福生市（正確には近隣5市1町に跨がっています）の在日米空軍横田基地で開かれたMACA (Kanto Plain Mid-Air Collision Avoidance Seminar: 関東空中衝突防止セミナー)、通称"横田カンファレンス"にフライインしてきました。

本来、空中"衝突防止"セミナーですが【空中衝突】がインパクトある表現なので「横田カンファレンス」と呼ぶようになっています。

ちょっと横田カンファレンスの歴史紹介

2009年に横田空域を航行するジェネアビと米空軍機の相互理解を深めるカンファレンスがスタート。その後2年毎に開催されています。今回が7回目。カンファレンス当日、日本のジェネアビは横田基地にフライインするか地上ルートからの参加となります。

基本的なカンファレンスプログラムは

- 基地内見学（タワーやラブコン（レーダー室）など）
- 各部隊の紹介です。

毎回、少しづつ工夫を凝らして変化に富んだカンファレンスになっています。

このカンファレンスで情報共有するようになってから横田APPへの積極的なコンタクトも増え、米軍内ではインシデント、ヒヤリハットの件数が減ったとの報告も出ているとのことです。

今年は例年になく長く続く梅雨空に加え、直前には台風5号が台湾方面を通過し、20日当日の天気がかなり危ぶまれました。幸い関東は何かVMCとなり、ホンダエアポート、龍ヶ崎飛行場、大利根飛行場、遠くは仙台空港からも参加がありました。残念ながら県営名古屋空港からの参加予定機は悪天に阻まれ不参加。それでも小型機が17機集まり、参加者は60名近かったです。





横田食事

ウェルカムモーニング

ランチタイム

フライインしてまずはタワー・ラップコンを見学し、運用中のレーダ画面や管制官用のタワーシミュレータなどを紹介して貰いました。



- 横田管制
- 横田C-130オペレーション
 - 横田UH-1/C-12オペレーション
 - 横田CV-22オペレーション
 - 厚木基地オペレーション
 - 座間キャンプオペレーション

各部隊の横田空域へのDEP/APPコースがあり、トラフィックが輻輳するポイントや編隊飛行の大きさなどの説明がありました。

因みに、C-130が4機編隊の場合は、トランスポンダーは先頭1機のみ。最後尾は2NM程度離れているのでTCAD/TCASだけではカバーできないケースもあるとのことです。

今回は話題のオスプレイCV-22の展示と運用についても紹介がありました。

参加者の皆さんも興味深くプレゼンに耳を傾けていました。

13時過ぎに帰投に向けてWXブリーフィング。空港だけで無く龍ヶ崎や大利根のWX情報も入手してくれていました。(どうやって入手しているか???ですが)

朝のフライインに比べシーリングが上がり視程も良くなったなか、各機順番に離陸、ベースに帰投しました。

2年毎なので次回は2021年だと思いますが、皆さんも是非参加してみてはいかがでしょう。

レポート：藤沼敏弘



空港施設株式会社 AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

仙台空港第二小型機用格納庫 入居者募集

当社は、1970年の設立以来、東京国際空港（羽田空港）を拠点に、北は新千歳空港から南は那覇空港に至る国内主要12空港及び海外2空港において、空港に必要な施設と機能を提供、運営管理することを主業とし、安全な空港運営及び航空会社の運航をサポートさせて頂いております。

現在、仙台空港内に当社が所有する仙台空港第二小型機用格納庫にて入居者を募集しております。

個人・法人問わざご興味のある方は下記担当者までお気軽にお問い合わせください。



仙台空港第二小型機用格納庫 施設概要

物件名	仙台空港第二小型機用格納庫及び附帯施設
所在地	宮城県岩沼市下野郷字北長沼4番地
延床面積	格納庫：1,186m ² 、事務所：566m ² 格納庫間口44.7m×奥行26.5m
構造	鉄骨造
竣工年	1993年12月
交通アクセス	仙台空港旅客ターミナルから車で約5分
募集面積	格納庫：948m ² 、事務所：443m ² 、駐車場：18台
賃料	応相談
担当者	空港施設株式会社 業務一部業務一課 花島 尚史 (はなしま たかし) 〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5第五綜合ビル TEL:03-3747-0256 E-mail:hanashima518@afc.jp

操縦士の自己管理

奥貫 博

このところ、操縦士の自己管理が問題となる事例が何件か発生しています。

最初は、平成29年3月に発生した、長野県消防防災航空ヘリコプターの事故で、出動した機体が山地を飛行中、地上に接近しているのに、回避操作が行われず、樹木に衝突の後、山の斜面に墜落大破したものです。

機体には、機長ほか同乗者8名の計9名が搭乗していましたが、全員死亡の、悲惨な結果になってしまいました。

この事故の調査報告においては、機長が航空身体検査を受検する際、本来であれば、自己申告して、航空業務実施可否の判断を受けなければならぬ既往歴や医薬品の服用等があるのに、申告されていなかったとの指摘があります。また、事故の原因については、生理的眠気が発現した可能性が考えられるとしていて、いずれも、機長の心身の自己管理の欠落の関与が指摘されています。

次は、国内外での、操縦士の飲酒に係わる問題です。国内航空会社の飲酒に関する一連の不適切事例や、これに伴って発覚したアルコール検査の実態を踏まえ、操縦士の飲酒に関する統一的な基準として、運航に影響を及ぼすと認められる体内アルコールの濃度が、血中濃度0.2g/L、呼気濃度0.09mg/Lと定められたのは、既にご存じの通りです

これまで、航空機の正常な運航ができない恐れがある間は航空業務を行ってはならないとして、自己管理に委ねられていたものが、厳格に数値管理されることになり、また、航空身体検査においても、飲酒習慣の詳細な申告が必要になってしまいました。

これらについては、既に「航空身体検査証明自己申告確認書」としての実行が定められ、その3ページにも及ぶチェックリストに従った確認と申告が必要になりました。

既往歴や医薬品服用等の申告も、飲酒の件も、飛行前の心身の状態等も、本来であれば、「I'M SAFE」のチェックリストに従って自己管理するべきものであるはずです。

とはいっても、現実に問題が発覚していることですから、管理が厳しくなるのは仕方ないと思っていましたら、自家用運航において、更に困った事態が起こってしまいました。

IMSAFE(アイムセーフ)チェックリスト	
I Illness 〔病気〕	持病や病気の症状はありませんか？
M Medication 〔薬〕	筋力薬または市販薬の服用はありませんか？
S Stress 〔ストレス〕	仕事上のストレスはありませんか？会社問題、健康上の問題や家庭の不和等の心配はありませんか？
A Alcohol 〔飲酒〕	8時間以内に飲酒はしていませんか？24時間ではどうでしょうか？
F Fatigue 〔疲労〕	疲れてはいませんか？十分な睡眠や、休養がとれておりませんか？
E Eating 〔食事〕	十分な食事がとれていますか？必要な水分は摂取されていますか？

*：当初のEはEmotionでしたが、EmotionはStressの後に含まれるとして、Eatingの方を記載しています。夏季等の熱帯の日には、熱中症防止のためのDrinking(水分摂取)も特に重要です。

操縦士の自己管理の例(I'M SAFE)

航空の安全確保の基礎として、航空身体検査があり、また、2年毎の、特定操縦技能審査がある訳ですが、その両方が切れた状態で、機長として飛行していたというのです。

そうでなくとも、肩身の狭い思いの、小型機関係者にとって、自己管理以前の、法令無視の操縦士の存在は本当に困ります。この操縦士は、特定操縦技能審査の審査員であったとのことですが、その審査員認定の取り消しは当然のこととして、「操縦士免許取り消し、飛びたかったら再受検」といった厳しい措置であってもよいのではと思うほどです。

このような、操縦者の自己管理の欠如に関わる運航の問題はまだあります。平成29年8月に発生したTBM700型の墜落事故です。

この調査報告が、今年7月に公表になったのですが、事故の原因是、飛行中の制御喪失による急降下旋回からの空中分解と推定され、同機の操縦に必要な知識及び技能を有していないかったため、適切な操縦操作が行えなかった可能性が考えられる、とされています。

この事故調査報告書では、国土交通大臣に対して「経験のない航空機の場合は、必要な知識及び技能を確実に獲得した上で操縦するよう指導すること」との勧告が出されていますので、いずれ何らかのガイダンス等により、管理が実行されることになるでしょう。

事故等が発生するごとに、対策としての管理が厳しくなるのですが、それ以前に、自己管理の問題として、I'M SAFEや、知識・技量等の再確認が必要です。また、高齢者の場合は、更に年齢に応じた自己管理の要素を加え、安全な運航を目指すことが必要です。



|一般社団法人日本飛行連盟| 第67回 通常総会

日 時 令和1年6月22日(土) 15:00~16:15

場 所 航空会館 503号会議室

議 題 第1号議案／平成30年度事業報告及び収支決算報告その他、運営状況報告等

全代表 13名の内、出席者9名、委任状4名により全議案は承認されました。

【H30貸借対照表】平成31年3月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1／流動資産	18,339,142	18,480,748	-141,606
2／固定資産	2,742,997	3,017,687	-274,690
資 産 合 計	21,082,139	21,498,435	-416,296
II 負債の部			
1／流動資産	4,492,853	6,910,751	-2,417,898
2／固定資産	750,000	850,000	-100,000
負 債 合 計	5,242,853	7,760,751	-2,517,898
III 正味財産の部			
1／指定正味財産	6	6	0
2／一般正味財産	15,839,280	13,737,678	2,101,602
正 味 財 産 合 計	15,839,286	13,737,684	2,101,602
負債及び正味財産合計	21,082,139	21,498,435	-416,296

【平成30年度 正味財産増減計算書】

自／平成30年4月1日～至／平成31年3月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1／経常増減の部			
(1) 経常収益	22,077,506	19,100,453	2,977,053
経 常 収 益 計	22,077,506	19,100,453	2,977,053
(1) 経常費用			
① 事業費	14,204,348	15,365,967	-1,161,619
② 管理費	5,771,556	4,148,632	1,622,924
經 常 費 用 計	19,975,904	19,514,599	461,305
当 期 経 常 増 減 額	2,101,602	-414,146	2,515,748
2／経常外増減の部			
(1) 経常外費用			
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	2,101,602	-414,146	2,515,748
指定正味財産より振替	0	0	
一般正味財産期首残高	13,737,678	14,151,824	-414,146
一般正味財産期末残高	15,839,280	13,737,678	2,101,602
II 指定正味財産増減の部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
一般正味財産へ振替	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	6	6	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	6	6	0
III 正味財産期末残高	15,839,286	13,737,684	2,101,602

●日本飛行連盟の飛行場

Airport

大利根飛行場

茨城県稲敷郡河内町・利根川河川敷

真夏真っ盛りの大利根です。此所が浜辺だとしたらクラブハウスは海の家。その雰囲気にぴったりの飛行機乗りが大勢来場されます。機体の磨きに腕の磨きにと、余念がありません。機体も身体も暑さ対策万全でこの夏を乗り切りていきましょう!!

三保飛行場

静岡県静岡市清水区三保・三保半島

飛行場に新しいメンバーが加わりました。白い軽トラ君です。これでいつもお願いしていたレンタ君とはおさらば。買い物や役所、焼却場にとこれからフル活動してくれるそうです。軽トラ君、長持ち宜しく。